

# スハマソウ キンポウゲ科

石川県では「雪割草」とも呼ばれ、雪どけとともに春一番にさく花で、代表的な春植物です。花の色は白から淡い青、淡いむらさき色、こいピンク色までさまざま、そのかれんな姿のために山野草として採取され、身近な山ではほとんど見られなくなっています。



CD-ROM版「石川県の絶滅のおそれのある野生生物」より抜粋

## スハマソウの特ちょう

草の高さが10～15センチメートルほどの小型の多年草で、葉は冬もかれずに残ります。葉の質は厚く、表面につやがあり、緑色の淡いはん点が入る特ちょうがあります。ミズナラやブナなどの林の下に生えます。

### 調べやすい時期(花期)

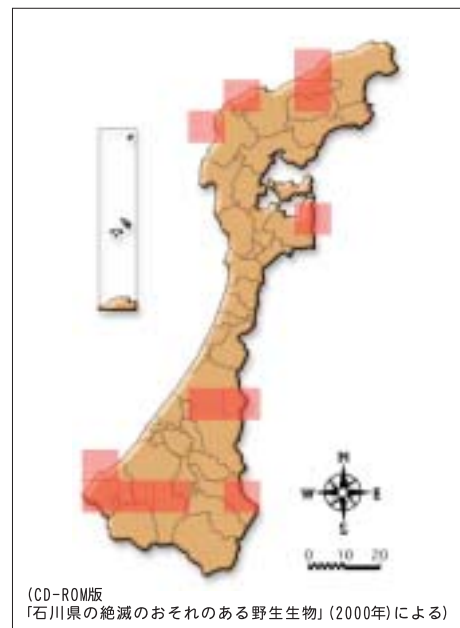
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月

## 県内の分布

県内の丘や低い山地に広く分布しています。しかし、園芸用の採取や雑木林の手入れがされないことなどが原因でとても少なくなっています。

## 見つけやすい場所

早春の3月から4月かけて、コナラやミズナラ、ブナなどの落葉樹の葉がまだひろがらない時期にそれらの森に行くと、林の中にさく小さなスハマソウを見つけることができます。



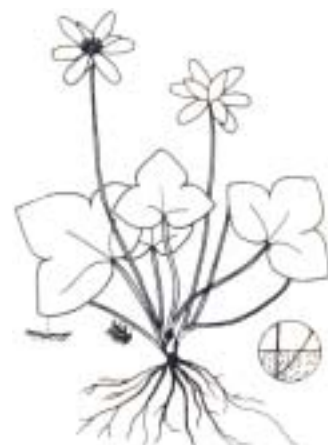
(CD-ROM版「石川県の絶滅のおそれのある野生生物」(2000年)による)

## 見分け方のポイント

葉は表に短い毛が密にはえていて紫色になり、長い茎があります。また、葉の先は浅く三つにさけて丸みをおび、葉はやや厚く、緑色に淡いはん点が入ることがあります。

まちがしやすい種類として、南加賀などでごくまれに見つかることのあるミスミソウがあります。ミスミソウは葉に丸みがなく、とがった形のものです。

### スハマソウ



「加賀能登の植物図譜」(小牧旌著)より抜粋